第２回学校関係者評価委員会報告書

学校法人国際ビジネス学院金沢
国際ホテル＆ブライダル専門学校

学校法人国際ビジネス学院金沢　国際ホテル＆ブライダル専門学校の「令和５年度自己評価点検報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

記

開催日時：2024(令和 6)年 2 月 13 日（火）16:30～17:30
開催場所：国際ホテル＆ブライダル専門学校　12 階

１．学校関係者評価委員

＜参加（来校）＞
・企業等委員　　：三木　淳　　（金沢ニューグランドホテル　支配人）
・関係業界委員　：丸江　みゆき　（株式会社ジャスマック　WB 協会企画・広報部長）
＜本校職員＞
・本校教職員　　：東　ちえこ、開田　晶、出口　陽子、三浦　明墅乃、阿部　洋介、因幡理佳子、室井　真実
・司　　会　　：阿部　洋介
・議事録作成　　：室井　真実

２．本会の主旨
学校が行った自己評価の結果等について、学校に関係の深い方々に評価をいただくことを基本とするもの。
学校だけでは気づけないことに気づき、結果として自己評価そのものの質を高め、次の改善に繋げる活動。

３．報告事項：現 2 年生の就職内定状況について
＜三浦＞
2 年生 27 名うち 24 名内定。

残り３名のうち２名はブライダルへの就職意欲がなくなりつつあったが、今になって興味が出始めてきているため就職活動中。
加賀屋グループ内定者は４月１日付入社で変更なし。金沢での配属に決定。

４．報告事項：実践教育について
＜阿部＞
ゴールデンエッグ：
昨年のゴールデンウイーク明けより営業開始。
後期はホテル専攻がゴールデンエッグプレミアムへの移行に伴い班編成を変更。
次年度は一班の実習期間を長くし、サービスの質を高めていきたい。

＜開田＞
ゴールデンエッグプレミアム：
ホテル専攻から毎回４、５名ほど選出。
二部制で営業しており、どちらもほぼ満席となった。
お客様に食材の魅力を最大限に伝え、お客様の評価を調理に伝えることで良い循環を作る。
ゴールデンエッグ同様、次年度一班の実習期間を長くし、サービスの質を高めていきたい。

＜出口＞
ギフトウエディング：
2 月 11 日にホテル金沢にてゲスト 70 名を招待し施行。
新婦様は現 2 年生の従妹。
大きな問題はなく無事に終了した。
学生はアルバイトでのサービス等の経験の有無でパフォーマンスに差が出ている。
次回は、6 月 10 日にゲスト 50 名を招待し施行。
新婦様は新入生のお姉様。

５．広報活動　学生募集など
＜東＞
24 名入学希望（うち１名は大学との併願）
ガイダンス等の接触時点ではホテルブライダルの希望者は少なくないが、確定に持って行くのが難しい現状。

今年の新３年生は、動きが遅い傾向。
昨年は富山からの入学が減少した。（富山の動きが遅かったことが関係しているのか。）
福井は関西に流れやすい傾向があるが、新幹線の開通もあるため、獲得していきたい。

＜阿部＞
2 月に入りオープンキャンパスの参加者が増えた。富山からの参加者が多かった。
ブライダルの道に行きたい高校生は多いが、ホテル希望者は少ないのが現状。

＜東＞
近年は SNS で学校を調べる高校生が非常に多くなっている。
競合校は SNS に特化している印象がないため、SNS の充実が鍵になるのではないか。

６．令和５年度自己点検進度表における評価結果より抜粋
・基準３　教育活動：業界の現状について
＜丸江様＞
ブライダル業界：
コロナ以降小規模となっていたが現在は元に戻っており、小規模会場はなくなりつつある。
件数の確保はできているが人手不足。
ホテルでは自社運営を辞めてプロデュース会社として運営しつつある。
募集状況としては 2023 年から 2024 年は据え置きか増えている。

＜出口＞
どこも人手不足と聞く。
以前は大学生しか採用しないところもあったが、現在は専門学生の募集が増えている。

＜丸江様＞
大学生は募集しても来ないため、専門学生の採用がメインになりつつある。

＜三木様＞
ホテル業界：
昨年の秋にはコロナ前の客数に戻ったが、毎年冬は減少傾向になる。全国的に見ても石川は減少している。
コロナが収束し最初は主要観光地に行く傾向があるため、次に金沢が来るのではないか。
能登地震の影響で新年会はほとんどキャンセルになった。（3 月に支援割が開始予定。）
金沢は欧米と台湾からのインバウンドが多い。

被災後、インバウンドからのキャンセルはほとんどなく、3 月にさらに増加する見込み。
留学生がアルバイトをし、そのまま就職するケースが増えている。留学生は勤勉な人が多い。

＜開田＞
留学生は自頭が良くスキルが高い人が多い。
留学生を受け入れることでスタッフの英語教育にもなる。

７．その他
＜東＞
学院として奥能登の被災者を対象に、1 年間授業料、実習費の免除を実施する。（罹災証明書の提出が前提。）

第１回学校関係者評価委員会報告書

学校法人国際ビジネス学院金沢
国際ホテル＆ブライダル専門学校

学校法人国際ビジネス学院金沢　国際ホテル＆ブライダル専門学校の「令和４年度自己評価点検報告書」に基づいて、学校関係者評価を実施しましたので、以下の通り報告いたします。

記

開催日時：2023(令和５)年７月 13 日（木）15:30～16:30
開催場所：国際ホテル＆ブライダル専門学校　10 階

２．学校関係者評価委員
＜参加（来校）＞
・企業等委員　　：三木　淳　　（金沢ニューグランドホテル　支配人）
＜本校職員＞
・本校教職員　　：東　ちえこ、出口　陽子、開田　晶、三浦　明墅乃、室井　真実
・司　　会　　：福島　栄治
・議事録作成　　：室井　真実
　福島　栄治、西谷　桃香、阿部　洋介：昨年度より引続き参加

２．本会の主旨
学校が行った自己評価の結果等について、学校に関係の深い方々に評価をいただくことを基本とするもの。
学校だけでは気づけないことに気づき、結果として自己評価そのものの質を高め、次の改善に繋げる活動。

８．報告事項：現２年生の就職内定状況について
ホテル専攻４名全員内定。
年々、ホテル業界の内定時期は早くなっている。
ホテル採用試験が夏以降になる企業に関しては、その採用試験を待つ学生が不安を抱きやすい。
ブライダル専攻 23 名うち 18 名内定。

例年同月に比べると内定者数は多く、式場の内定が多い。
今年は県内外内問わず対面での面接が増えた。

９．業界の採用状況（コロナ禍から現在への変化）
〈ホテル〉
コロナ禍では面接が基本的には１回、多くて２回であったが、今年は３、４回実施する企業が多い。筆記試験の実施も増えた。
人材不足のホテルが多く、採用数を増やしている。
ホテルの差別化、ブランディング展開が増えてきている。
北海道、沖縄、東京では観光客が戻りつつあるが、北陸はそれほど戻ってきていない。
周辺のホテルではレストランの夜営業をなくしている
名古屋ではウェディング系の企業がホテルを建て始めている。
あるホテルではシェフが残り続けキッチンは高齢化し、サービスでは若手が辞めている。
女性を必要としている。
婚礼数を少なくして、宴会で利益を上げている。
〈ブライダル〉
対面での面接が大半。グループディスカッションの実施が増えた。
面接してすぐに結果を出すなど、決定が早いように感じる。
サービスは男性を必要とする傾向（マネージャー候補を求めるため）
お客様の想像を超えるプランナーでないと業界で生きていけないと危惧している。
アルバイトをしている人を優遇する傾向がある。
＜その他＞
どこも口を揃えて人手不足と言っている。
大卒は他の業界に目移りする傾向があるが、専門卒は一途に２年間専門知識を学んでいるため期待されている。

１０．　広報活動　学生募集など
23 名入学希望（去年同月は 31 名）
ガイダンスに行っても当校に知名度がないため、まずは名前と学校を知ってもらう必要がある。
当校の知名度はまだ低い。
当校の広報の弱さが一番の課題のため、専属の広報担当をつける。

１１．　令和５年度自己点検進度表における評価結果より抜粋
・基準３　教育活動：業界が求める人材ニーズについて
〈ホテル〉

ホテルは教育と時間にお金をかけられないため即戦力が求められる。
面接で、「当校のホームページを見て、どこを直したらよいと思いますか？」「パソコンはどのくらい使えますか？」と聞かれることが多く、IT スキルを求められることが増えた。
ホテルは分業制が増えてきている。
３分の２がネット予約（JTB 約２%、楽天、じゃらんが約５０%）になってきているため、IT に強い人材が求められる。
インバウンド対策として英語力重視の傾向もある。
お客様に寄り添った接客のできる人材と、専門分野に特化したスキル（IT や英語等）を持つ人材を両方採用する必要がある。
ホテルは現金での授受が多いが、最近では電卓に慣れてしまっている人が多いため、暗算能力が求められる。
手紙やお礼状の書き方、電話の取り方が分からない人が多いため、一般教養を学校で教える必要がある。
人間力（社会人としてのマナー等）が重要。
ホテルは分野に長けた人を採用する傾向がある。
〈ブライダル〉
敬語などの一般常識がいかにできているかが重要。
少人数ウェディングの増加により、スタッフも少人数で対応するため、オールマイティーにこなせる人材が必要。
ブライダルでは SNS での発信力が求められている。
接遇マナーの授業があるが、なかなか学生が身につかず、担当の先生から授業時間数を増やしたほうが良いのではないかと相談を受けている。

行動を習慣化することで体現されるため、敬語を身につけるには、普段から先生と敬語で話したり、実践教育で敬語を話す機会を増やすことが必要である。

・基準４　教育成果：採用試験における対策について・他校情報
ブライダルはセンスを問われる傾向があり、私服面接が多い。
元気で明るく、受け答えがスムーズにできるかが重要。
面接でおとなしくなってしまう学生が多いが、新卒は元気で明るく、熱意があることが必要ではないか。
質問の意図を理解していない学生がいる。
就職して何をしたいのか具体的に言えることが重要。
学校でしっかり対策をしているからか、受け答えは大卒より専門卒の方が上手なイメージがある。
添削をするとどうしても自分の言い回しになってしまい、学生本人の言葉ではないと面接

で見抜かれてしまう。
学生の言葉や気持ちを崩さないようにしている。
自分でも気づいていない部分を深堀することで気づかせて、自分の言葉で話させるようにしている。